

第13回地域医療貢献奨励賞 受賞者（2019年度）

遠藤 秀彦	岩手県岩手郡葛巻町 国民健康保険葛巻病院・院長
<p>昭和53年自治医科大学卒。岩手県内でも医師不足が深刻な沿岸地域において地域医療の確保に長く尽力し、平成14年度からは、4つの県立病院の院長として16年にわたり勤務し、病院機能の充実、地域・救急医療の確保、患者サービスの向上に努め、地域住民に信頼される病院づくりを進めてきた。特に、東日本大震災の発生時に県立釜石病院長として診療機能の維持のため陣頭指揮し、要請のあった救急患者全員を受け入れ、釜石保健医療圏における急性期病院・災害拠点病院としての役割を果たし、その後被災の経験から課題を見つけて同医療圏の医療提供体制を再構築することを通じて震災からの復興に尽力したこと、「自治体立優良病院表彰」を3度も受賞するなど県立病院長として優れた経営手腕を発揮し、岩手県の公立病院のモデルづくりに貢献したことは特筆すべき業績である。平成30年度からは、生まれ故郷である葛巻町の国民健康保険葛巻病院長として地域住民の生命と健康を守るため昼夜を分かたず尽力し、その誠実な人柄と慈愛に満ちた診察姿勢に多くの町民から感謝と信頼の念を寄せられており、地域医療への貢献は極めて大きい。</p>	
勅使河原 正敏	埼玉県秩父市 秩父市立病院・院長
<p>昭和56年自治医科大学卒。昭和58年に秩父市立病院の内科医として勤務を開始し、同院を中心に一貫して地域医療に従事。平成元年には同院内科部長に就任、内科医として地域医療を支える傍ら、平成7年から秩父市が開設する浦山出張診療所長を兼ね、自ら代診や巡回診療を行い、時には早朝から深夜まで診療にあたるなど、地域医療に貢献した。平成20年からは秩父市立病院長として市の保健、医療、福祉の中心的存在として、市役所等の産業医、特別養護老人ホームの嘱託医、市の健康診査医等として地域住民の健康維持・増進に深く関わるほか、「ちちぶ医療協議会」(1市4町)の教育プログラム作成や救急医療、予防医療、リハビリテーションに関する事業を推進、近隣の公的医療機関に勤務する医師の派遣に対する援助を行う等により、近隣市町村からの信頼も厚い。また、地域医療機関の連携による総合診療専門医養成プログラムの作成や研修実施に携わり、若手医師の育成・指導にも熱心に取り組んでいる。埼玉県の中でも最も医師が不足する秩父地域の中核病院である同院に30年以上勤務、近隣の診療所や介護施設も含んだ医療体制の構築を行政とともに達成し、地域医療の確保に長年にわたり貢献した功績は極めて大きい。</p>	

萩野 正樹	福井県南条郡南越前町 南越前町国民健康保険今庄診療所・所長
<p>昭和62年福井医科大学卒。過疎・豪雪地域であり、民間医療機関の進出が期待できない中、国民健康保険診療施設として住民の健康を見守ってきた南越前町今庄診療所に平成12年に着任。医師確保が著しく困難な中、所長として地域医療を守るため、外来診療、訪問診療、当直の他に併設の今庄老人保健施設も管理し、昼夜を問わず診療に従事した。電子内視鏡システム、ヘリカルCTスキャナ等の先端機器を導入・更新、有効活用することにより、生活習慣病をはじめとする疾病の早期発見・治療にも努めたほか、住民の在宅生活を支えたいという熱意から『24時間診療』を掲げ、患者並びに住民の立場に立ち、寄り添い、献身的、精力的に外来診療、入院診療、訪問診療を行っており、その温厚で誠実な人柄から地域住民から慕われ、信頼を得ている。また、小・中学校の校医や予防接種・特定健診・がん検診などの公衆衛生活動に尽力するほか、町の各種協議会・委員会等にも積極的に参加、地域の社会福祉協議会、居宅介護サービス事業所、特別養護老人ホームやそこで働く多職種とも協働・連携するなど、地域包括ケアシステムの構築に中心的に関わっている。地域医療に対する貢献はもとより、町全体の医療、保健、福祉、介護等全般の根幹を支えた功績は極めて大きい。</p>	
丹羽 治男	愛知県北設楽郡東栄町 東栄医療センター・センター長
<p>平成4年自治医科大学卒。臨床研修修了後の赴任先として、愛知県東三河山間部に位置する、北設楽郡東栄町のへき地医療拠点病院である国民健康保険東栄病院に着任。以後、同院で23年余診療に従事し、地域医療、へき地医療に大きく貢献した。同院は、広大な面積を有する北設楽郡唯一の病院として、住民に対する通院、入院および救急医療を行ってきたが、過疎化・高齢化の進展による患者数減少、収入減少により医療人材の確保が困難になる中、自らが中心となって各職種を取りまとめ、必要な医療が提供されるよう努めてきた。患者の立場に立って、懇切丁寧な診療を行うその姿勢は、住民から大きな信頼を得ている。また、地域包括ケア充実のため、訪問診療、往診、巡回診療、住民健診を始めとした健診・保健業務を精力的に実施するほか、若手医師の研修など地域医療研修の協力病院として「奥三河地域研修プログラム」を実施するなど医師の育成にも尽力、隣接している地域のへき地診療所に対して医師派遣を積極的に行うなど、地域医療、へき地医療への貢献は極めて大きい。</p>	
中島 恭二	滋賀県甲賀市 甲賀市立信楽中央病院・院長
<p>昭和59年自治医科大学卒。平成5年に信楽町国民健康保険中央病院(現甲賀市立信楽中央病院)に着任後、同院での診療業務に加え、振興山村指定地域や無医地区に設けられた3か所の出張診療所での診療業務にも従事してきた。平成20年には同院院長に就任、現在でも出張診療所が開設されていない地域への訪問診療を週2回行うなど、27年間にわたり農山村地域の医療確保・医療充実に尽力し、地域住民の健康づくりや住民福祉の向上に貢献してきた。また、将来の地域医療を担う医学生の実習を受け入れ、同院が有するプライマリケアや地域包括ケア機能についての重要性を説くとともに、在宅医療や看取り教育、急性期における市内公立病院等との病・病連携について指導するなど、後進の育成・指導にも熱心に取り組んでいる。各種学会での研究発表なども継続して行い、自己研鑽に励む必要性を後輩医師に伝えるなど、病院内外の医療関係者からの信頼も厚い。滋賀県信楽地域で多年にわたり医療確保に尽力、住民の健康づくりに貢献した功績は極めて大きい。</p>	

藤本 特三

和歌山県田辺市 紀南病院・内科嘱託

昭和55年自治医科大学卒。へき地診療所や地域の病院で勤務した後、平成元年に社会保険紀南総合病院(現紀南病院)に着任。山間部が大半を占める田辺保健医療圏において中核的な役割を担う同院において、30年の永きにわたり、内科の中心医師として活躍、内分泌、糖尿病の専門医として、糖尿病教室の開催や市民講演会による啓発にも尽力してきた。平成23年に副院長就任後も月4回程度、へき地診療所での診療を行いながら、臨床研修医をはじめとする若手医師の指導医として教育指導に携わり、将来、地域医療を担う医師の育成にも尽力してきたほか、平成23年の台風12号による紀伊半島大水害では、自ら救護班の中心として被災住民の診療や健康管理等にあたり、被災地の医療支援に献身的に取り組んだ。巡回健診や小・中学校の学校医も引き受け、地域住民の疾病の早期発見、健康の保持増進に取り組むなど、年々過疎化が進み高齢者の割合が高くなっている同地域において、保健医療のリーダーとして活躍するその姿に住民からの信頼は厚く、地域医療への貢献は極めて大きい。